

**根暗なTS少女が
犯されて性格拗れる話**

でも僕っつ!

あー



僕はTSした……

ただ……

何も変わらなかった。

日陰ものの僕は結局、
僕のままなんだ……

帰ろ……

ガラガラ

この時の僕は、
そう思っていた。

そんな事を少しだけ、
期待した事もあった

ガラッ

けど、結局何も変わらない

女の子になってこの
暗い目つきが変るだとか……

クラスの皆に興味を
持たれる事だとか……

まじ
てよ
んんん



い、いやいや

ありえないって
僕、こんなだぞ…



嘘でしょ…
僕をつけてる…？

ズン



まっ

カチ

カチ



へっ…？

カチ
カチ



な、殴られる!!



あ、あの…?!

もしかして…
か、かつあげ…?!



か、かわっ!!

は?

お、こりや当たりだぜ
結構可愛い顔
してんじゃねえか



は……？

え……

こ、これってっ！

お、お、お、お



嘘だ

嘘だ

嘘だ…



おいおい、今さら気付いたのかよ
どんくせーやろうだな



どうして…
ぼ、僕がっ！

そもそも何でこの人
僕みたいなの…
そ、そうだった！



き、気持ち悪く
ないんですか…
僕が…

ぼ、ぼく
暗いし、目とか…



何だあ自意識過剰か？
そんな可愛いお目目に何気持ち
悪がる必要なんてあんだよ

っーかよ...

ま、またっ！



そんなエロい体で尻向けて
何自分準備満タンですみたい
に待機してんだよ？

え!?

ちよ、ちよっと！
ちがっ!!



欲しいなら欲しいって
いえよ、なあ？

待っ！



待って！待って！
僕そんなつもりっ！
ち、違うからああっ！！

ビクッ

ハッ



何だあおめえ、その割には
ちいっと濡れてんじゃねえか

ほおーれおちん〇ん
様だぞおー

ビクッ

ハッ



アハハハ
おちん〇んの
先が……
入って……

ハッ

アハハハ

アハハハ



パツパツ

アッ

アッ

アッ

アッ

アッ

アッ

アッ

アッ



ああ…

あああ…

うううううう…

うううううう…

ボクの中にっ！…おちん○んが！！



んじやう…

ま、待ってっ！
う、動かないっ…で…



痛い…

痛い…

おいおい、どんどん愛液が溢れてきてんじやねえか、うけるそんなに待ち遠しかったのかよ

えっ……？

これが……僕の声……？

あーん

痛いのに……何これ……

へ、変な、こ、声でちゃう……
それにっ……

何が動かないでだ、
結構いい声出んじゃねえか
オラアッ！ラアッ

ハッ、ハッ、ハッ

ハッ、ハッ

ハッ、ハッ

ハッ、ハッ

ハッ、ハッ

ハッ、ハッ

ハッ、ハッ



らあっ!



何、いつちよ前に口塞いでんだ
こういうのはなあ...

痛みと一緒に何かっ...
き、気持ちいい...?



なっお、お尻叩かれて!?
僕っっ!!

はっはーん、いい声
でんじゃねえか、へへ

それに締まりもよくなっ
てまあ何だあてめえドMかあ?



知りたくなかった

女としての僕が...

知りたくなかった

こんなでMで下品な人間
だったなんて...

ぽんぽん
ぽんぽん
ぽんぽん



い、一発っ!?

ぽんぽん



へへ、いい感じじゃねえか

そろそろ一発キメちまうか

ぽんぽん



待ってっ！

一発ってっ！

あーん

あーん

待ってっ！

一発って！！

あーん

あーん

あーん



断らなきゃっ！

でも僕っっ！

あーん

あーん

あーん

あーん

あーん

あーん



ドドドドドドドドドドドド!

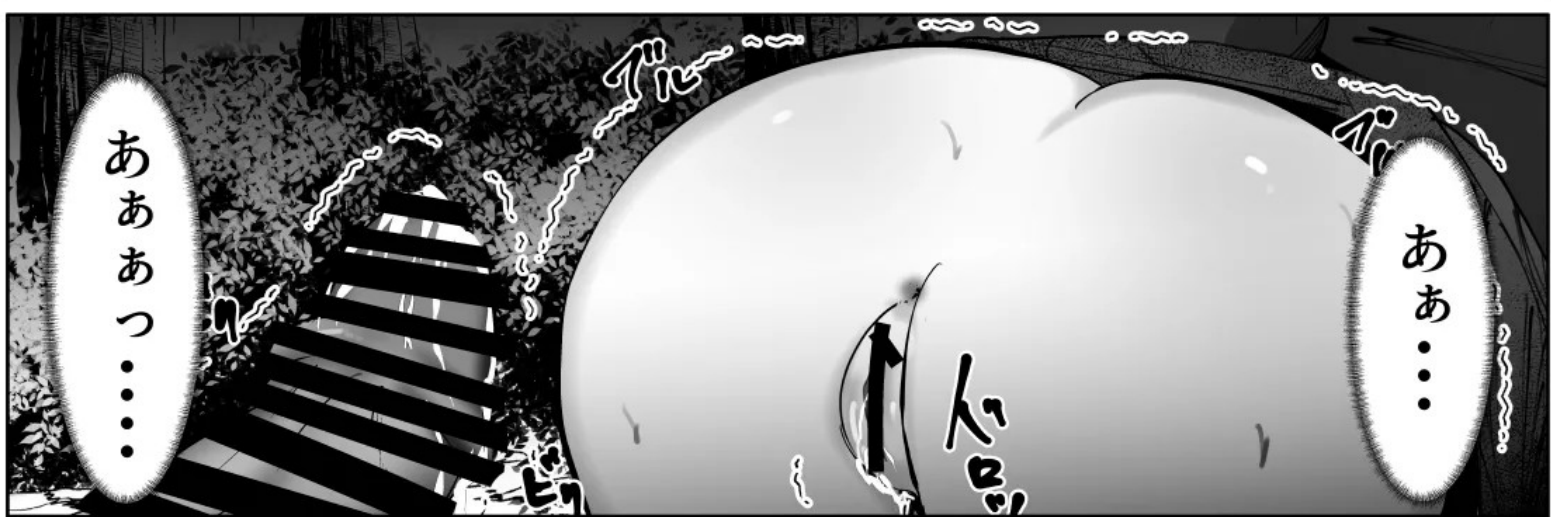
ドドドドドドドドドドドド!

ドドドドドドドドドドドド!

ドドドドドドドドドドドド!

ド

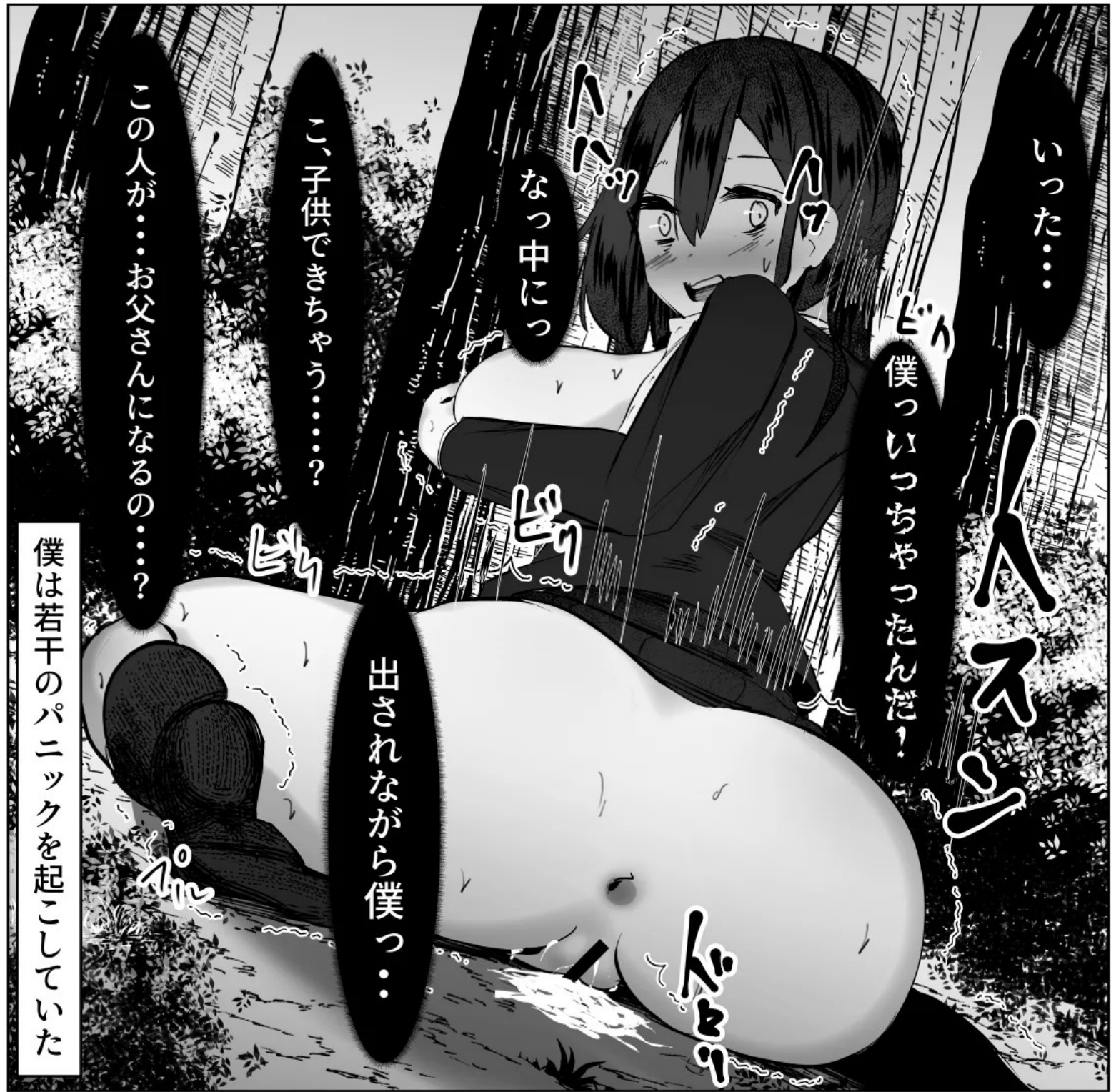
ド



あああつ……

ああ……

ド



いった...

ズンズン

僕っいつちやっただ...

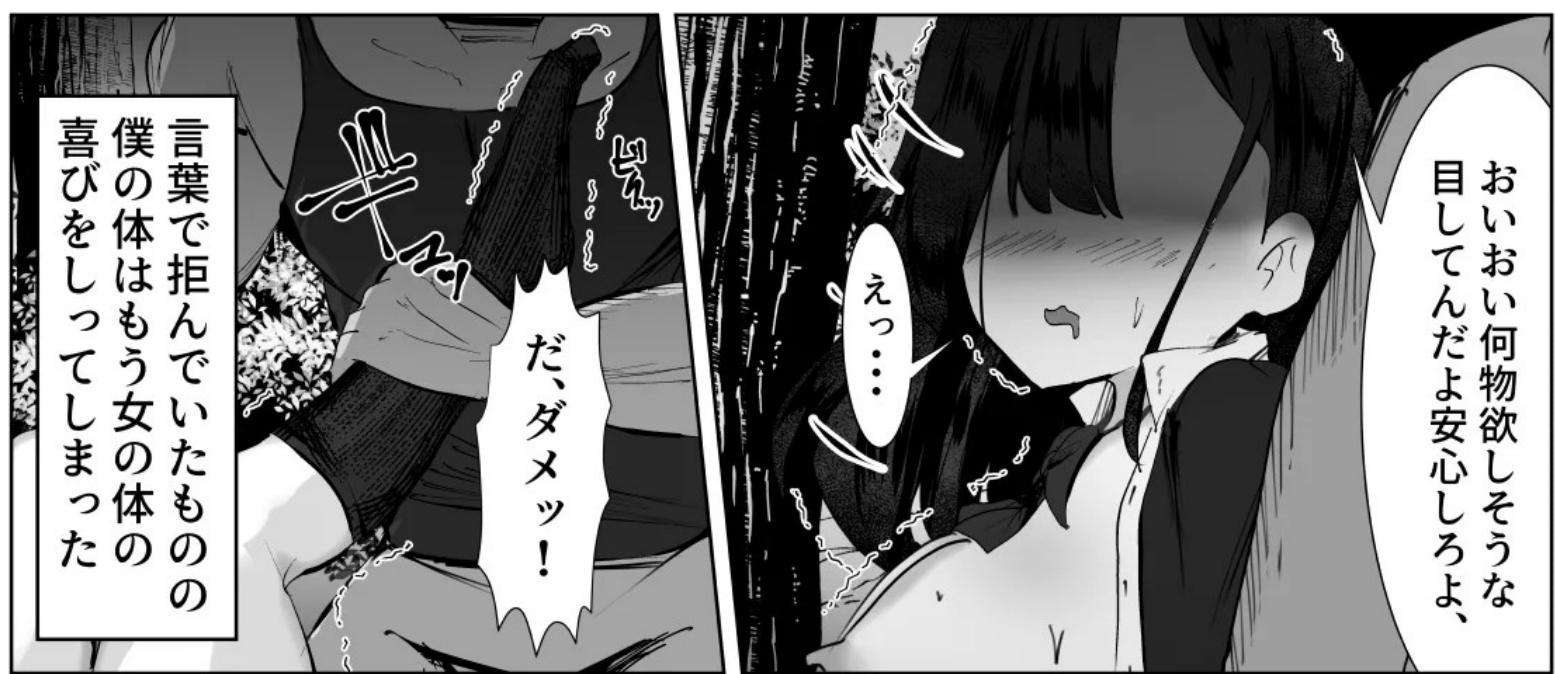
ハハハ
なっ中につ

この人が...お父さんになるの...?

こ、子供できちゃう...?

出されながら僕っ...

僕は若干のパニックを起こしていた



おいおい何物欲しそうな目してんだよ安心しろよ

えっ...

だ、ダメッ!

言葉で拒んでいたものの僕の体はもう女の体の喜びをしってしまった



ダメ...

ほ、ほんとにダメ...
だよ...

ダメ...

理性では否定していても僕の目は既に
男のちん〇に釘付けになっていた...



アッ

ズズズ

ズ

またっ！

あーあ

あー

あーあ

バキッ

またおちん○んがつ！！

頭では
わかってるのに...

バキッ

バキッ

僕っ！



おちん○んが気持ちいいから……？



初めて女として可愛いって
言われたから……？



体を無理やり
貪られてるのに……

(僕)私はもう……



この快樂と女としての喜びに

抗えなくなつてく……



気持ちよくてっ!

あったかくて、アッ



ダメッ...

ああダメ...



おまん〇グチユグチユされてっ...

メスになつちやうっ!!

ドンドン

あぁ

おおおおダメダメッ

おんおんおん

おんおんおん

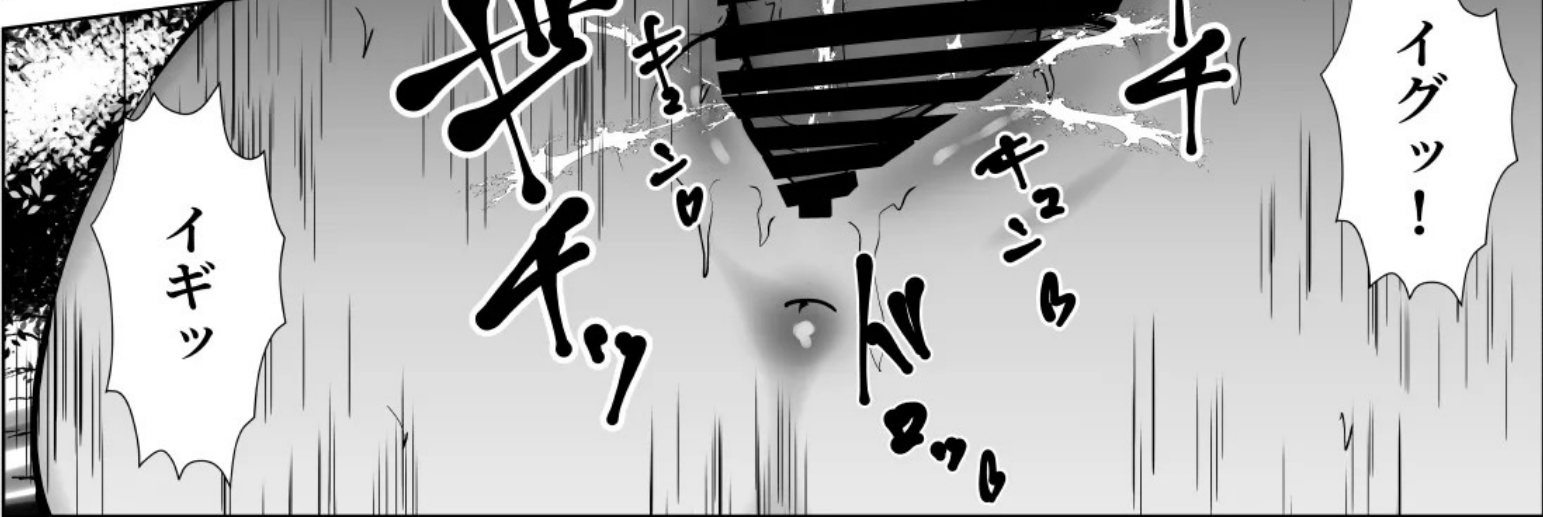
こえ我慢できないいいい!



イグッ!

おんおんおん

イギッ





中に出されるだとか...

僕はもうそんな事は
どうでもよくなっていた...

あつたかくて気持ちい感覚を
ずつと感じていたくなっていた

ただ男はもう満足したのかおもむろに
立ち上がって、身支度を始めた...

ふうさてそろそろ
切り合げっか



無意識だった……

おいて……かないで……

あ……

僕は人肌が恋しくなっていたのかもしれない……

違う……

雌としての僕がこの男を求めていたのかもしれない……

まじかよコイツ……

あークソツ……

男はサイテーではあったが
クズではなかったようだ…

こんな事で人の温もりなんて
知りたくなかった。

これも女になった僕だから
許される事なのかな…

けど…

僕が元々男だった事、今
彼に伝えたらどんな顔をするんだろう

そう思うとまた、
少し興奮して来た…

おわり